

## 細江カトリック教会だより

## 新年号

〒750-0016 下関市細江町 1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

## 新しい年を迎えて

新しい年、2020年を迎えたことを、皆さまとともに喜び申し上げます。2020年と言えば、まずは、東京オリンピックを考えますが、その無事と成功を祈るとともに、それを超えて、日本が、そして、世界が抱えている様々な問題が一步でも、解決に向けて進むことを祈らずにはられません。

教会は、12月の終わりから、降誕節、公現節という恵みに満ちた時を過ごしてきましたが、あらためて、降誕節にいただいた恵みの意味を振り

返ってみたいと思います。一年の典礼暦の中で、復活節と降誕節は二つの大きなヤマを作っていますが、長い四旬節の準備期間の後に迎える復活節が最大の山であることは否定でき

ません。しかし、降誕節は、復活節の前提として、それに劣らず大事にすべき季節です。復活節は、主イエスの受難と死、そして、復活という過越しの神秘を祝うものですが、降誕節は、時が満ちて、神が御独り子を人としてこの世に送ってくださったこと(受肉の神秘)を記念する季節です。降誕節の間、幼子イエスの誕生にまつわる様々な物語が語られ、多くの重要なみ言葉を聞くことができました。その中心になる言葉を一つ選ぶとすれば、ヨハネ福音書の冒頭の言葉「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた」(Verbum caro factum est.) (ヨハネ 1.14)だと言ってよいで

しょう。それは、キリスト教信仰の最も根本的な確信です。永遠・無限の、愛そのものである神が、限界に包まれ、弱さと罪深さにまみれた人間世界の一員として、わたしたちと同じ生を始められたということは、繰り返し味わい、黙想すべき神秘です。

昨年未来日されたフランシスコ教皇は、教会に集う者ばかりでなく、多くの日本人に深い感動を残されました。教皇様の語られた言葉、人々に対するときの仕草、無言の佇まい、その存在すべてが、わたしたちが忘れかけている大事なものを示していたよう

に思います。あらためて、11月25日、東京カテドラルで行われた「青年との集い」でのスピーチを思い起こしましょう。

「家族のために時間を取ってください。友人のために時間を取ってください。でもそれだけでなく、神のためにも、祈りと黙想をもって——各自、自分の信条に従って……。そうするのが難しい時も祈ってください。あきらめてはなりません。ある思慮深い霊的指導者が言いました。祈りとは基本的に、ただそこに身を置いているということだと。心を落ち着け、神が入ってくるための時間を作り、神に見つめてもらいなさい。神はきっと、あなたを平和で満たしてくださるでしょう。」こうした教皇様の思いをここに留め、今年も希望をもって歩んでまいりましょう。

作道 宗三 神父



新下関地区では現在、連絡網で連絡している方が10家族、ミサに与る方が約14、5名といったところです。私が受洗した約15年前に比べても、ほとんど変わらない状況です。ただ地区の信者の方の高齢化、子供さんの成長などがあり、地区内での構成は大きく変わっています。ほとんどが高齢者となりました。

地区内では地区員の仲もよく、教会の行事にも皆さん協力的です。地区全体が高齢化ということもあると思いますが、昨年に限っては私の怠慢で活動が疎かになったかなと感じています。あと残り少ない今年度は楽しい地区になるようにしたいと思っていますのですが…。

昨年の心に残る出来事としては、やはり一番は教皇様の来日と長崎のミサに与れたことでしょうか。以前長崎の信者である友人がヨハネパウロ二世教皇の長崎訪問で、そのミサに与ったということを知ったことがありました。寒かったそうです。その時は信者でも何でもなかったのでも聞き流していたのですが、38年ぶりの教皇様来日でまさか長崎でのミサに信者として与れることが出来るとは夢にも思いませんでした。長崎の友人に会うことはかないませんが、当日同じ長崎のミサの会場にいたそうです。40年以上前に長崎に住みながらカトリックに無縁だった私が今信者として、ここにいる不思議に驚いています。

新下関地区 福永



### \*待降節黙想会を終えて

昨年待降節第2主日9時より細江教会の待降節黙想会を行ない、講師には防府教会主任司祭の朴孝鎮（パクヒョジン）神父様をお迎えしました。

先ず、ご自分の霊名が「目を覚ましていなさい」に由来するグレゴリオであることから話し始められ、私たちも思わず姿勢を正して黙想会に臨みました。

ヘブライ語の語源を引き合いに話された一言ひと言が興味深く心に残ります。中でもアハル（未来、後ろ）とクエデム（過去、前）の話は非常に印象的でした。後ろ向きに立ち、前（未来）に背を向けて過去を振り返りながら進む歩き方（前を見て危険を回避しながら見通しの良い道を進むのではなく、過去の失敗を見届けながら足元（現在）を確認しつつ歩く）は、まさに荒れ野に派遣されているユニークな私たち一人ひとりが、憐みの主と共に精いっぱい今日この日を生きるための力強い励ましのメッセージでした。

「どのように待つか」のテーマ通り、私たちが救い主誕生の歓びを新たに実感するため、心も身体も整えていくことに目覚める時を頂きました。日々自らの信仰生活を省み、独り子をお与えになるほどの神様の愛とみ旨に、改めて想いを寄せることを促されました。

皆様をお願いした今回の黙想会の感想の中に、「私にとって黙想や祈りの会に参加することは心の垢を洗い流し、



「神の民として御父の信仰を強める時間」という一文を書かれた方がおられました。年2回の黙想会を単に信者の務めにとどめず、みことばを深く味わい、みことばによる祈りを通してますます揺るぎない信仰が育まれる実りのひとときとなるよう、これからもこの大切な機会をたくさんの方々と共有し分かち合えることを願っております。今後ともどうぞ皆様の積極的な参加をお願い致します。

(典礼委員会 2019.12.23 記)



## ベトナムのクリスマス会 12/21



\*ベトナムの若者たちの手作りの馬小屋です。人形等はベトナムからの取り寄せです。

この日のベトナムのミサでは青年(ビンセント マリア) ゲン ヴァン チェンさんの洗礼も行われました。いつも、こんなに多くの若者たちがいる教会にできればいいな・・・と思いつつながら一緒にお祝いをしました。



## 12/24 主の降誕(夜半)

夜半のミサで、洗礼式が行われました。



「ここまで支えてくださったすべての方に深く感謝します。これからもよろしくお願いします!」と、少し緊張気味の(フランシスコ・ザビエル)村尾洋平さん。

☆代母さんからのメッセージ  
神さまは決して忘れない

“わたしがあなたを忘れることは決してない。見よ、わたしはあなたをわたしの手のひらに刻みつける。(イザヤ書49章15、16節)”

村尾さんの受洗について思い起こしていると、心の中に聖書のこの句が浮かびました。

村尾さんとの出会いは、村尾さんが大学生の時、教育実習生としてサビエル高校に来られた時です。その時、私は村尾さんに聖書を渡したそうなのですが、その時の聖書を今も大切に読んでいると聞きました。(村尾さんのお人柄を感じます。) 私はそのことをすっかり忘れてしまっていたけれど(私の人柄を感じます。) 神さまは忘れずに、ずっと今日まで村尾さんを導き、信仰を育ててくださったのですね。神さまの御業に驚くばかりです。

これからも神さまはたくさん恵みを準備して待っておられます!

フランシスコ・サビエルのように、神に信頼して歩んでください。

キリスト・イエズスの宣教会  
シスター小濱 富美代

**主の降誕ミサ**

\* 今日、全世界は主の降誕をお祝いいたします。…



\* 闇に住む民は光を見た…。この夜、マリア(さよちゃん)とヨゼフ(あるとくん)が、幼子イエスさまを飼い葉おけに寝かせました。



\* 今年も天使幼稚園児と一緒にミサに与りました。天使たちは司祭から祝福を受ける。

**12/25 主の降誕(日中)**

祝賀会では、3人の神父様たちも参加され、各テーブルではお話しの花が咲いたことでしょう。嬉しい恵みのひと時でした。



**今年の抱負 6歳**

主のご降誕をよろこびのうちに迎え、新しい年も始まり、私の第二の人生もスタートです。

人間は愚かなものなので、なかなか自分を変えるのは難しいでしょうが、謙虚に、よろこんで進んでいきたいと思えます。

これからもよろしくお願ひします。

林 裕子



0

~イブの夜~  
たのしい時はすぐ過ぎる  
「このまま止まればいい」な~  
と思ったりする  
クリスマス☆イブの夜  
すべての子どもたちの夢の夜  
靴下と一緒にトナカイの鈴の音がするまで  
長い夜はつづく☆☆☆  
どうか 世界中の子供たちに  
平和なクリスマス☆イブに  
なりますように☆  
Yukie

\* 本町地区 藤本幸枝さんの詩

**お知らせ**

キリスト教一致祈祷集会  
1月23日(木) 10:00~  
彦島カトリック教会